

大阪市立心和中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は令和 6 年 4 月に開校した昼間部・夜間部の二部制をしく中学校である。とりわけ、昼間部は文部科学省の認可を受けた「学びの多様化学校」であり、転入してくる生徒は全員不登校を経験している。

昨年度は、昼間部・夜間部ともに生徒にとって新しい環境であると同時に、教職員にとってもこれまでの学校とは違った学校システムや施設であり、授業や行事を進めながら、教育の在り方を模索しながら進めてきた。

特に昼間部は、不登校を経験した生徒にとってまずは学校に来ることが第一歩となるため制服や校則を定めずに、授業への参加も各自の判断に任せてきたが、2 年目である今年度はさらに議論を重ね、中期的な見通しにたった方向性を定め、学校運営を進めていく必要がある。

また、昼間部と夜間部の交流については、合同授業やスポーツフェスタなどを共に学んできたが、さらに発展させて日常的な交流につながるような取組を進めていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

校内アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」と答える生徒の割合を昼間部・夜間部ともに 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

校内アンケートにおいて「毎日、同じぐらいの時刻に寝て、同じぐらいの時刻に起きていますか」の問いに対して、肯定的に回答する生徒の割合を昼間部・夜間部ともに 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

教育DXの考えのもと、教育の質を向上するために端末を使った校務支援システムの改革が進んでいると感じている教職員の割合を 100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

① 2 学期末の校内調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を昼間部・夜間部ともに 80%以上にする。

11 昼間部生徒に対する 2 学期末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

13 2 学期末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を昼間部・夜間部ともに**昨年度（昼間部 7.1%・夜間部 38%）**以上にする。

18 2 学期末の校内調査における、「毎日、同じぐらいの時刻に寝て、同じぐらいの時刻に起きていますか」の問いに対して肯定的に回答する生徒の割合を昼間部・夜間部ともに 70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

⑨授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

⑫ 教育 D X の考えのもと、教育の質を向上するために端末を使った校務支援システムの改革が進んでいると感じている教職員の割合 **100%を維持**する。

21 昼間部生徒に年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して肯定的に回答をする生徒の割合を 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

開校 2 年目となる今年度は、初年度の取組を深化させた一年間であった。とりわけ「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する昼間部の肯定回答が 87%と、昨年度より 22 ポイント上昇したことは今年度最大の成果であると考え。教職員が一丸となって組織的に支援を行ってきたこと、授業や行事等を工夫してきたこと、在籍 2 年目の生徒を中心に学校生活への適応が進んだこと等、様々な要因が複合した結果と推測する。

夜間部においては、昨年度よりも生徒の出席率が上昇していることに加えて「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定回答について、昨年度同様 100%を維持することができた。天王寺教室と学習の場が 2 か所に分かれていることから、教育活動の運営に苦慮する面はあるが、教職員の創意工夫により生徒の実情に配慮しながら教育の質を落とすことなく学校運営を進めることができた。

昼夜間部の交流について、保健体育科、外部講師による合同授業とは別に計 8 回の合同授業を実施したり、合同授業実施前に交流を円滑にするための活動を取り入れたりして、昨年度より充実させることができたことも大きな成果である。

一方で本校の実情に沿った学校運営を適切に維持するために、校務分掌の構成や授業・行事のあり方等、引き続き試行を繰り返しながら持続可能な支援体制の構築に係る検討が必要である。

(様式2)

大阪市立心和中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ① 2学期末の校内調査における、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を昼間部・夜間部ともに80%以上にする。 11 昼間部生徒に対する2学期末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-2 不登校への対応 個別最適な学びと多様な学習の機会の場の創出 ----- 指標 校内生徒アンケートを2回実施する	B
取組内容②【2 豊かな心の育成】 2-2 キャリア教育の充実 一人ひとりの実態やニーズに合わせたキャリア教育の実施 ----- 指標 一人1回は職場体験学習、職場見学、職業講話を体験する	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【最終反省】 ・1月の校内調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定回答は、昼間部87%、夜間部100%であった。(昨年度: 昼間部65% 夜間部100%) 夜間部においては昨年度より出席率が増加しながら100%を維持することができた。昼間部においては、昨年度より22ポイント上回り、昨年度の開校から、生徒の支援体制や行事の企画運営を工夫すること等により、生徒の自己肯定感醸成を図る取組に一定の成果が見られた。 ・一方で1月の校内調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の昼間部肯定回答は52%であった。(昨年度: 61%) 《取組内容①》 ・年度目標の達成には至らなかったが、1月の昼間部校内調査における次の肯定回答から、本校の【安全・安心な教育の推進】は一定の効果が見られたと言える。 「学校の中に安心して過ごせる場所がありますか」87% (昨年度: 77%) 「授業はわかりやすいですか」95% (昨年度: 91%) 「心和中学校に転入してから、学習や生活などに対する不安や心配なことは少なくなったと思いますか。」90% (昨年度: 83.8%) 「不安なことや困ったことについて、学校の先生やスクールカウンセラーに気軽に相談できますか」69% (昨年度: 49%)	

「心和中学校に転入してよかったと思いますか」 100%（昨年度：97.6%） 《取組内容②》 ・キャリア教育の各活動において、学習者用端末を活用して、育みたい資質・能力について生徒が自ら意識しながら、系統的に取り組むことができた。
次年度への改善点
【最終反省】 ・開校して2年間の取組を総括し、行事等のあり方について検討を進める必要がある。教育課程についても柔軟な運用を図り、教職員の打合せや研修に係る時間を確保したい。 ・キャリア教育に限らず、あらゆる活動をとおして生徒の自己肯定感醸成に努めながら、生徒が自主的にキャリアデザインに向き合う姿勢を支援する必要がある。

(様式 2)

大阪市立 (学校園名) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 13 2 学期末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を昼間部・夜間部ともに昨年度(昼間部 7.1%・夜間部 38%)以上にする。 18 2 学期末の校内調査における、「毎日、同じぐらいの時刻に寝て、同じぐらいの時刻に起きていますか」の問いに対して肯定的に回答する生徒の割合を昼間部・夜間部ともに 70%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 5 教科の授業における習熟度別少人数授業とセルフクエストを活用した学び直し	C
指標 校内生徒アンケートを3回実施する。	
取組内容②【5 健やかな体の育成】 5-2 健康教育・食育の推進 学級活動や各種通信を通して生活リズムを整える取組の推進	B
指標 集会や授業の中で自らの生活を振り返る機会を月1回は設定する	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【最終反省】 ・1月の校内調査における、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」に対して最も肯定的に回答した割合は、昼間部26%（昨年度7%）、夜間部55%（昨年度38%）と目標を達成した。 ※今年度の肯定回答：昼間部52%（昨年度40%）・夜間部84%（昨年度90%） ・1月の昼間部校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」に対する肯定回答は95%（昨年度67.5%）、「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」に対する肯定回答は85%（昨年度69.8%）であった。夜間部校内調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きているか」に対する肯定回答は76.3%（昨年度95%）であり、目標を達成した。 《取組内容①》 ・昼夜間部ともに、各教科の創意工夫により、授業内で生徒自身の考えを表現したり、伝え合ったりする活動を生徒の実情に配慮しながら、昨年度より充実させることができた。 ・昼間部で11月に実施した土曜授業においては、昨年度に引き続き、教科横断的な活動をとおして、生徒の興味・関心に応じたグループ分けを行い、役割の異なるグループ間の交流を通じて「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ。	

《取組内容②》

・昼間部では日々の学級活動に加えて、午前に学習・体験活動の時間を設定したり、長期休業中に登校日を設定したりする等、生活リズムを整える取組を推進した。

次年度への改善点

【最終反省】

・昼間部生徒の特性上、自分の考えを言語化したり、他者と共有したりすることに不安を感じる生徒もいるため、言語活動の充実を図る前に校内及び授業内の環境について、心理的にも物理的にも生徒にとって安心・安全を確保することが不可欠である。深い生徒理解に基づき、生徒の実情に応じた配慮のもと、「主体的・対話的で深い学び」の推進に昼夜間部ともに継続的に取り組みたい。

・昼間部のセルフクエストについては、様々な事情により実施が困難な状況にある。実施に向けた検討が必要である。

(様式2)

大阪市立 (学校園名) 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ⑨授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 ⑫ 教育D Xの考えのもと、教育の質を向上するために端末を使った校務支援システムの改革が進んでいると感じている教職員の割合 100%を維持する。 21 昼間部生徒に年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して肯定的に回答をする生徒の割合を80%以上にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【6 教育D Xの推進】 6-1 ICTを活用した教育の推進 教科会を不定期に設定するとともに教員研修を充実させ、学習者用端末の活用を促進する。		B
指標 教科会、ICT研修を月2回以上設定する		
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 7-1 働き方改革の推進 ICT教育担当を中心に業務がスムーズに遂行するように工夫する。		B
指標 教職員アンケートを2回実施する。		
取組内容③【8 生涯学習の支援】 8-3 学校図書館の活性化 生徒のニーズによる図書を充実させ、様々な教科・領域で図書館の活用を 昼間部・夜間部ともに促進する。		C
指標 授業等による学校図書館の利用回数を週1回以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【最終反省】 ・昼間部の学習者用端末について、5月から12月までの平均活用率は60%であった。生徒の実際の出席率（オンライン学習や関係機関への通所を除いた本校への登校率）が約6割であり、本校において学習活動に参加している生徒の割合にほぼ等しい状況である。 ・1月の校内調査において、「教育D Xの考えのもと、教育の質を向上するために端末を使った校務支援システムの改革が進んでいると感じている」に対する教職員の肯定的回答は100%であった。 ・1月の昼間部校内調査において、「読書は好きか」に対する肯定回答は、67%（昨年度67%）であった。 《取組内容①》 ・ICT教育担当が主となり、ICT研修を実施した。生徒対象の操作・運用に係る研修も転入当初のオリエンテーションの一部に位置付ける等、効果的に設定するとともに、日々の教育		

活動において生徒がつまずいた際に個別対応を行う等、適切に支援している。

《取組内容②》

・教職員対象のアンケートについて、ハイブリッド学習の運用、及び校務支援システムの改革に係るアンケートを各1回実施した。

《取組内容③》

・図書館担当及び学校司書を中心に、生徒のニーズを把握し図書の実充に努めた。また、授業等で積極的に図書館を活用している。夜間部生徒による図書館利用もみられた。

次年度への改善点

【最終反省】

・学習者用端末の活用及び図書室利用のさらなる促進のために、課題と成果を整理して改善点の検討を継続する。